

## 青森県下北郡・風間浦村との交流報告（社会学部社会福祉学科 野村裕美ゼミ）



（2010年9月1日新島襄寄港記念碑前）

2010年9月1日から3日の2泊3日をかけて、私たち4回生ゼミメンバー13名は青森県下北半島の最北端に位置する風間浦村に行ってきました。風間浦村は、新島襄がかつて函館から渡米する直前に寄港したことが縁となり、学校法人同志社と交流協定を結んでいる村です。今回は、本学で社会福祉学を学んできた最終年度の集大成として、同志社と縁のある風間浦村の協力を得て、このフィールドワークツアーを計画しました。私たちが取得をめざしている社会福祉士はこの村にはいませんが、フィールドワークでは、過疎の村で実践に取り組む保健・医療・教育・福祉等各種専門職の人々と交流し、①保健・医療・福祉の今日的課題を学び、②専門職としての志（使命）を多くの職種の方々から学ぶことを目的としました。

### 【風間浦村とは】

風間浦村のある下北半島は、本州最北端に位置し、日本三大霊場の一つである恐山があり、1988年までは青森と北海道の函館は、青函連絡船で結ばれていました。

風間浦村は、下北郡の北西部に位置している、人口約2500人の本州最北端の村です。総面積の92.9パーセントが林野で、ほとんどが傾斜地であり、平地はきわめて少なく、良質の硫黄泉として名高い下風呂温泉があります。日本海ではなく、陸奥湾に面しているため、積雪量は比較的少ないと言われています。目の前に函館が一望できる立地となっています。隣には、まぐろの一本つりで有名な大間町（おおまちょう）があります。

### 【村と新島襄との縁（えん）】

新島襄が鎖国令を破り渡米する際に、嵐を避けて寄港し体を休めた地がこの風間浦村でした。1864年、安中藩本家備中松山藩の洋式帆船「快風丸」に乗り、新島は品川から函館へと向かいました。鎖国の時代に、新島はアメリカで学びたいと強く願い、函館からの渡米を試みました。その航海の途中、激しい嵐と荒波にあい、寄港したのが、風間浦村の下風呂港でした。その史実を同志社校友会青森県支部が話題に取り上げ、記念碑を建立、平成4年には寄港記念碑が建立され、学校法人同志社と村との交流事業が始まりました。現在も毎年本学留学生が訪問したり、同志社中学校へ風間浦村中学校生が訪問し、交流を深めています。

### 【村の直面する課題】

昭和35年から平成17年の45年間で2342人が減少し、過疎化に歯止めがかかりません。高齢化率30.98パーセント。国民健康保険料が、大阪府守口市などに続いて全国でも負担大の市町村として有名

です。少子化、若年者の村外流出、戻ってくる出稼ぎ者の高齢化など、抱える課題はとても大きいです。特に近年では、市町村合併の問題に絡む村内施設の減少の問題、たとえば、唯一の診療所の存続の危機、小学校の統合等、また移動手段の確保、原発の問題等が村民の生活に大きくのしかかり、2009年6月にはとなりのむつ市との合併の賛否を問う住民投票も行われました。

この度のフィールドワークツアーでは、風間浦村役場総務課、風間浦村教育委員会の全面的なバックアップのもと、村内の施設である、3つの小学校（普通学級、特別支援学級）、保育園、地域包括支援センター、診療所、社会福祉協議会で一日交流実習を実施しました。その他、村の直面している福祉的課題に理解を深めるため、横浜力村長や越膳泰彦教育長からのご講演、隣町に建設中の原子力発電所建設地への見学、青森ひばやイカという特産を使って村の産業を支える村口産業社長や風間浦村観光協会会長との交流、そして下北の人々の死生観にふれる恐山参拝をプログラムに組み、3日間をフルに使って風間浦村を肌で感じる機会を得ることができました。

### 【スケジュール】

青森空港から、車で3時間半移動して、風間浦村に入りました。道中、核燃料の再処理工場である六ヶ所村と風力発電の巨大な風車の道、日本最大級の菜の花畑をもつ横浜町、恐山を通過していきました。

<b>9月1日</b> <b>水曜日</b>	14:00 風間浦村到着 15:00 講演「村と新島裏の縁」 村に関するガイダンス 村長と懇談 村内・隣町見学	講師 教育委員会教育長 越膳泰彦氏 講師 総務課 富岡宏氏 風間浦村 横浜力村長
<b>9月2日</b> <b>木曜日</b>	9:00 原子力発電所見学 10:30 ・交流実習（一日） ・インタビュー 18:00 宿帰着 18:00—20:00	大間原子力発電所建設地見学 1. 風間浦村地域包括支援センター 風間浦村診療所（佐谷・青島） 2. 風間浦村社会福祉協議会（西川・吉本） 3. 易国間小学校（湯浅・吉持） 4. 蛇浦小学校（細田・谷岡） 5. 下風呂小学校（堀田・大江） 6. 風間浦保育所（林・池田） 村関係者と座談会
<b>9月3日</b> <b>金曜日</b>	9:00 青森ひば細工体験 12:00 恐山参拝	村口産業・わいどの木

初日は、越前教育長より村と学校法人同志社との縁についてのご講演を、村役場総務課の富岡氏より、行財政状況について講義を受けました。また横浜村長との懇談も実現し、村の直面している課題として介護予防に関する計画等について講義を受けながら議論をさせていただきました。二日目は、2名ずつ6チームに分かれ、村内施設における交流実習とインタビューを行いました。インタビューでは、各専門職の方々が、この職を選んだ経緯、現在感じている課題、現在抱えている課題に対するやりがい、取り組み意欲、村の将来に対して思うことについてお話をうかがいました。対象は、小学校の教員、医師、看護師、保健師、保育士などの方々です。

昨年度は、村の直面する課題を理解するため、村唯一の診療所の存続を住民運動にて勝ち取った仕掛

け人でもある小野元村長に当時の経過やその時の思いをご講演いただきました。今年は、学生からの要望もあり、隣町に建設中の大間原子力発電所建設地の見学をさせていただき、原子力発電と大間原発の特徴について講義を受けることができませんでした。  
**(文責 野村裕美)**

**以下に、今回の訪問に関するゼミ生の感想を掲載します。**

**今年度の風間浦村訪問における学生の成果発表は、本年12月11日に開催される同志社大学社会福祉学会第25回年次大会において、ポスター発表をする予定にしています。**

## **風間浦保育所での交流実習**

19072012 林敦子

今回のフィールドワークでは、風間浦保育所で交流実習をさせていただきました。保育所に着いた時の印象は、大変きれいで想像していたよりも子どもが多いように感じました。それは若者が都会へ行くため少子化が進み、子どもの数はとても少ないと思っていたからです。風間浦保育所は5年前に少子化のため3ヶ所あった保育所が統合され1ヶ所になったそうです。

今回先生方にお話を聞くことが出来、印象に残る言葉が多々ありました。その中でも「親の気持ちの変化」という言葉が印象に残りました。親特に母親の子どもへの接し方が変わってきたとおっしゃっていました。それはプラスの方向ではなく、マイナスの方向に変化していて親の意向で子どもが振り回されている状況になっているようです。親が自分の時間を持ちたいがゆえに子どもが煩わしくなり、ネグレクトにつながってしまうのではないかと思います。

また、先生方に風間浦村の将来について聞くと、働く場所を増やして欲しいとおっしゃっていました。若者が村を出るのは村に残りたくても働く場所がないからです。保育所でいうと、都市では待機児童が大勢いて需要があるのに、村では需要もないため働くことが出来ません。風間浦村にとって働く場所を増やすことが村の活性化につながると思いました。

今回の保育所実習で今の親子関係や都市と地方の差などを勉強することが出来ました。



(2010年9月20日 風間浦保育所 お昼寝終了時)

## **易国間(いこくま)小学校・特別支援学級での交流実習**

19072091 吉持紗奈

今回の青森でのフィールドワークにおいて、私は易国間小学校の特別支援学級にて学ぶ機会を与えて頂いた。易国間小学校の特別支援学級で一日を過ごし、お話を伺う中で、村だからこそその長所を垣間見ることができたように思う。私は大都市で生活することが多く、そしてそれは、過疎の村よりも多くの

選択肢を持つということだと思っていた。選択肢は多い方が好ましいのは当たり前であるし、それが良い方向に繋がっていくとも思っていた。しかし、易国間小学校の特別支援学級で1日を過ごしている内に、感じ方が変わってきた。

風間浦村は、村全体で子どもを育てる意識がとても強いということが、お話を伺い、そして授業の際に村を歩いていて感じた感想だ。過疎の村だからこそ、村の方は子どもについてよくご存じだった。また、子どもたち自身も保育園の頃から一緒に過ごしている友達のことを良く知っているし、障がいのある子どもたちの存在を、当たり前な存在として受け止めていることが伝わってきた。村であるからこそ、一人ひとりを知り、理解する。それを自然と意識できる環境なのではないかと感じた。特別支援学級や養護学校の体制など、過疎だからこそ難しい問題もあるが、それ以上に村全体で子どもを理解するという姿勢に私は感動した。これから、卒業まで残りわずかだが、風間浦村、そして易国間小学校での学びを胸に刻み、これからの学びに繋げていきたいと思う。



(2010年9月2日 易国間小学校かもめ学級 授業風景)

## 風間浦村社会福祉協議会での交流実習

19072058 西川茉波

私は、風間浦村社会福祉協議会で職員の方々にインタビューをさせていただきました。以前風間浦村が、隣接する大間町と佐井村と合併するという話が持ち上がったことがあったそうですが、村民の反対で合併がなくなったことを聞きました。それを聞いて、私は、村民が風間浦村を大切に思っているのだと思いました。しかし、その一方で、合併することで、福祉サービスを提供する母体を大きくすれば、効率的な福祉サービスを提供できるというメリットがあることを職員の方に教えて頂き、村を守ることが、村民の快適な生活を支える最も良い方法ではないことを知りました。私は、今まで過疎地域は、過疎であることが問題であるという漠然としたイメージしかありませんでした。しかし、今回、風間浦村社会福祉協議会で職員の方にお話を聞いて、過疎が地域の社会福祉にも影響をもたらしていることを知り、過疎問題の深刻さを実感することができました。

19062095 吉本麻理菜

風間浦村の気さくで優しい皆さまとの触れ合いはとても楽しかったです。歩ける方が車椅子の方を支えている姿が印象的でした。いくつになっても「生涯現役！！」で元気でいてください。本当にありがとうございました。





(2010年9月2日 風間浦村社会福祉協議会デイサービス おやつ風景)

## 風間浦村を訪問して

19072065 大江健太郎

私はこの青森のフィールドワークを通じて、風間浦村と同志社大学の繋がりや風間浦村の現状を自分の目で見、体感できたことで非常に貴重な経験になった。

その中でも一番、印象に残っているのが下風呂（しもふる）小学校を訪問し、村の教育の問題に触れたことである。下風呂小学校は全校30人程度の生徒数がおり、生徒数の少なさから複式学級を採用しており、一学年一クラスではなく、二学年で一クラスで編成されていた。複式学習には利点も問題点もあると思われる。印象としては常時、グループ学習をやっている状態なので教師次第で自分たちのペースで学習が出来ることや、上下の関係や横の繋がりが強いと、生徒同士の協調性や自主性が強いことが感じられた。しかし限られた人間関係の中での学習となるので、様々な価値観や考え方、問題に触れることが出来ないのが問題への適応能力や小学生という人間を構成するうえで非常に大切になる時期にこのようなことが体験できないのは非常にマイナスだと感じた。

このような問題を少しでも解消するためにも、少子高齢化という問題はすぐには、解決出来ないと思うので、まずは生徒が多く、価値観や様々な人と出会うことが大切になってくると考える。そのような意味で、これからの日本の社会福祉を支えていく、社会を牽引していく同志社大学、社会福祉学科の学生の風間浦村訪問ということは、私たち学生にとっても小学校の生徒たちにとっても、日本社会においても、非常に大きな好機だと感じた。またこの交流は続けていかなければいけないと感じた。ここで学んだこと、経験したことは自分たちの中で消化するのではなく、社会や福祉に活かしていきたいと思う。



(2010年9月2日 下風呂小学校 下校時 九九練習)



(2010年9月2日 蛇浦<へびうら>小学校 掃除の時間)

## 風間浦村を訪問して

19072019 池田美菜子

2泊3日青森の旅、風間浦村の方々の温かい歓迎とお心遣いを受け取り、私たちはこれまでにないとても貴重な体験をさせていただいた。3日間、風間浦村各所でその地の人々と出会い、言葉を交わした。フィールドワークで訪れた保育所では、子どもたちの大きな笑い声に行動力、みんなの溢れるパワーに触れ、たくさんの元気をいただいた。

保育所の先生方へのインタビューからは、ご自身のお仕事への愛着とともに、生まれ育った村を大切に想う気持ちが伝わってきた。その言葉を聞きながら、私は自分自身がこれから「働く」ということについて、また、自分が生まれた場のことを思い返していた。

村の方々と関わるなかで、私はどの方からも共通に、生まれ育った地、その場で営まれるご自身のお仕事への気持ちを感じていた。生まれた場所を離れることなく生活を重ねていく姿は、自分の地を大切に育てることなのだと知った。

私たちは今後、再びこの地を訪れることはないかもしれない。しかしそれでも、ここで感じたご縁と、受け取った温かい歓迎の記憶は、感覚として必ず残る。村の方々は共通に、私たちに対して「この地での経験を、今後の人生に活かしてください」という言葉を送ってくださった。その言葉通り、私たちはここでの学びと感謝を、これからの人生の大きな糧として、自分自身と、これから出会う人を含めた「将来」を育てていかなければならないと感じている。



(2010年9月1日 横浜力村長と懇談)



(2010年9月1日越膳泰彦教育長講演「村と新島裏の縁」)



(2010年9月2日 大間原子力発電所建設地見学)



(2010年9月2日 風間浦村診療所 大柳院長・スタッフのみなさまと)





(2010年9月3日 村口産業「わいどの木」にて青森ひば木工体験中)



(新島裏が寄港した下風呂港 全景 眼前には津軽海峡)



(恐山にて 下北の人々の死生観に触れる)